

平成30年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	国際行政学会等分担金			担当部局庁	行政管理局			作成責任者	
事業開始年度	昭和29年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	管理官 行政情報システム企画課			管理官 添田 徹郎 課長 千葉 博	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	○総務省設置法第4条第1項第3号、第4号及び第6号 ○高度情報通信ネットワーク社会形成基本法第20条			関係する 計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	国際会議の機会を活用し、諸外国における行政学、行政実務等や電子政府の取組についての最新動向等について、情報収集・意見交換を図ることにより、総務省行政管理局が所管する施策(行政制度一般に関する基本的事項の企画及び立案並びに電子政府の推進)の推進に資することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	<p>国際行政学会では、世界各国において第一線で活動する行政学者・実務家が一堂に会して、行政学、行政実務等に関する研究報告や討議を行う場としての国際会議の開催をはじめ、学会機関誌「国際行政評論(IRAS)」の出版など、様々な活動を行っている。総務省においては、国家会員として毎年国際会議に出席するなどして、欧米及びアジア近隣諸国における国家会員である各行政機関をはじめ、行政学者・実務家と交流を深め、これら諸国における改革の動向等について情報収集・交換を行っている。なお、国際会議には、日本人の行政学者も出席し、論文発表や討議に参加している。【国際行政学会分担金：昭和29年度事業開始】</p> <p>また、行政における情報技術の利用に関する国際会議(以下、「ICA」という。)は、政府部門において電子政府に携わる担当部局間の知識・経験の共有及び意見交換を促進することを目的として、欧米・韓国をはじめとする主要国がメンバーとして参画し、活動を行っている。毎年秋に開催される年次総会においては、参加国の実情及び最新の動向について意見交換や各国が抱える問題やプロジェクトの成功例を相互に情報共有するとともに、パネルディスカッション等を通じて、今後の電子政府の在り方について討議を行っている。我が国からも、電子政府に係る現在の取り組み状況や目指している将来像について説明を行っている。【ICA分担金：昭和46年度事業開始】</p>								
実施方法	その他								
予算額・ 執行額 (単位：百万円)	予算 の 状 況	当初予算	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	10	9.9	8.8	8.9	9.5		
	執行額	10	9.9	8.8					
	執行率(%)	100%	100%	100%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	100%	100%	100%						
平成30・31年度 予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由					
	国際行政学会分担金	8.5	9						
	ICA分担金	0.4	0.5						
	その他	0	0						
	計	9	10						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	-								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック	

		定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と27～29年度の達成状況・実績							
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	本事業は、国際会議等の機会を活用し諸外国における行政改革や電子政府の最新動向等について情報収集・意見交換を図るものであり、分担金という性格からも、定量的な成果目標の設定になじまないものである。			目標：諸外国における行政改革や電子政府の最新動向等について情報収集・意見交換を図る 実績：年に1回以上会議に参加し、諸外国における行政改革や電子政府の最新動向等について情報収集・意見交換を図り、我が国行政の総合的かつ効率的な運営の推進及び利便性の向上を図った。							
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度		
		国際行政学会における情報収集・意見交換等の実施	国際行政学会における論文提出・発表等件数	実績	件	3	3	2	-	-		
				目標値	件	2	3	2	-	2		
	達成度	%	150	100	100	-	-					
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度		
		ICA年次総会における情報収集・意見交換等の実施	ICA年次総会における論文提出・発表等件数	実績	件	2	2	2	-	-		
				目標値	件	2	2	2	-	2		
	達成度	%	100	100	100	-	-					
	活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
国際行政学会への参加回数		活動実績	件	2	2	2	-	-				
		当初見込み	件	2	2	2	2	2				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込		
	ICA年次総会への参加回数	活動実績	件	1	1	1	-	-				
		当初見込み	件	1	1	1	1	1				
単位当たりコスト	算出根拠				単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込			
	国際行政学会分担金における予算額/大会参加回数	単位当たりコスト	百万円	4.8	4.7	4.2	4.3					
		計算式	円/回	9.5/2	9.3/2	8.3/2	8.5/2					
単位当たりコスト	算出根拠				単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込			
	ICA分担金における予算額/大会参加回数	単位当たりコスト	百万円	0.6	0.6	0.5	0.4					
		計算式	円/回	0.6/1	0.6/1	0.5/1	0.4/1					
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策 施策											
	政策 評価	測定 指標	定量的指標				単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-			
			目標値	-	-	-	-	-	-			
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)							
		施策の進捗状況(実績)										
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	改革 項目	分野:	-									
		(第一 KPI 階層)	KPI (第一階層)				単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-			
目標値			-	-	-	-	-	-				
達成度		%	-	-	-	-	-	-				
(第二 KPI 階層)		KPI (第二階層)				単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-				
	目標値	-	-	-	-	-	-					
達成度	%	-	-	-	-	-	-					
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												
-												

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	我が国行政の総合的かつ効率的な運営の推進及び国民の利便性の向上を図る上で、国際的な動向の把握は不可欠である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	欧米及びアジア近隣諸国における国家会員である各行政機関等との情報収集・交換は、国家会員である総務省が行う必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国家会員が多く参加する国際行政学会及びICAは、諸外国の政府機関が抱える課題や施策の最新動向について直接情報収集・交換を行うことができることから、優先度が高く必要不可欠な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	国際行政学会等分担金は会議主催団体の運営のために加入国等に対して課されるものであり、国際会議の開催や調査研究活動など、その事業目的に即して真に必要な支出が行われている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	毎年度論文提出・発表等を行っており、成果実績は成果目標を達成している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	世界各国において第一線で活動する学者・実務家が一堂に会し、行政学、行政実務及び電子政府等に関する研究報告や討議を行う国際会議に出席することは、諸外国の実情及び最新の動向について幅広く情報収集・交換を図る上で非常に有効である。また、当該会議において発表される各種論文・報告等も非常に有用であり今後とも同会議に継続して出席することにより、これら論文等の更なる収集・活用を図る。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	国際行政学会及びICAに引き続き加入することにより、諸外国の行政機関等との人脈構築・交流をより一層進めるとともに、国際会議等の機会を活用して更なる情報収集・交換を図る。また、毎年度開催される総会等において、加入国等に対して学会の活動報告及び会計報告が行われており、分担金の効率的な支出の是非につき、今後ともその執行状況を注視していく。 平成29年度行政事業レビューシートにおける外部有識者の所見を踏まえ、国際行政学会国際大会における発表論文等を整理等した報告書のHPへの掲載方法を工夫するとともに、専門誌に、ICAを通じて得た各国の取組状況等について特集記事を掲載するなど、さらに情報発信を図った。	
	改善の方向性	諸外国の行政機関等との交流及び情報収集のより一層の推進	
外部有識者の所見			
外部有識者による点検の対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現状通り	引き続き適正な予算執行に努めること		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
り通状現	引き続き適正な予算執行に努める。		
備考			

